

“今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

※特に断りの無い限り日付は日本時間です。

- ☆最初のISS構成要素打上げから2511日経過しました
- ☆第11次長期滞在クルーのISS滞在は172日経過しました
- ☆第12次長期滞在クルーのISS滞在は3日経過しました



11Sミッションパッチ

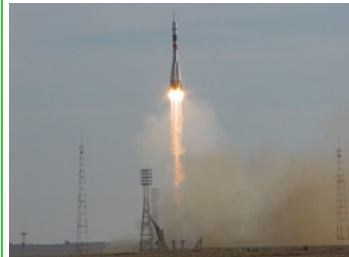
☆ISS動向

第12次長期滞在クルーのウィリアム・マッカーサーとバレリー・トカレフ両宇宙飛行士および史上3人目の宇宙旅行者であるグレゴリー・オルセン博士を乗せ、10月1日に打ち上げられたソユーズTMA-7宇宙船(11S)は、10月3日午後2時27分にISSと自動でドッキングしました。

結合部の空気漏れチェックの後、11SとISS間のハッチは同日午後5時36分に開けられました。第11次長期滞在クルーのセルゲイ・クリカレフとジョン・フィリップス両宇宙飛行士は3人を握手と抱擁、そして伝統的なセレモニーであるパンと塩を贈って歓迎した後、3人に対して緊急脱出手順の説明を行いました。

第12次長期滞在クルーの2人は、ISSに6ヶ月間滞在し、オルセン博士は、ISSに8日間滞在して科学実験等を行います。

オルセン博士および第11次長期滞在クルーは、10月11日午前10時8分にカザフスタン共和国内に着陸する予定です。



ソユーズロケットの打上げ(10月1日) ISSに接近するソユーズTMA-7宇宙船(11S)(10月3日) 到着した3人と第11次長期滞在クルー 第12次長期滞在クルーとオルセン博士を歓迎するクリカレフ宇宙飛行士(右)

“トピック”

☆野口宇宙飛行士帰国報告会

野口宇宙飛行士の帰国報告会が、10月1日(土)に東京・お台場で、2日(日)には神奈川県茅ヶ崎市で行われました。

東京会場では、野口宇宙飛行士は驚きと感動と楽しみに満ちた15日間の感想を述べ、打上げ／帰還、ISSでの生活、船外活動、宇宙食ラーメン「スペース・ラム」などについて、迫力ある生の言葉で報告を行いました。

ISSに持ち込んだ実物のペンシルロケットを手に、自分がやりたことをまっすぐ見つめて、長い時間かけて実現することはとてもすばらしいことであると語りました。

質疑応答では、観客席に降りて寄せられた質問に対しひとつひとつ丁寧に答えました。

茅ヶ崎会場では、アイリーン・コリンズ船長らSTS-114のクルー5名とともにパレードを行い、沿道に集まった茅ヶ崎市民の皆様の大歓迎を受けました。近くの公園に街頭テレビを設置し報告会の様子を同時中継することで、より多くの方に見ていただくことができました。

帰国報告会の様子については、以下のページもご覧下さい。

<http://sts-114.jaxa.jp/>



ペンシルロケットを手に、夢の実現に向けて努力する大切さを語る野口宇宙飛行士(東京会場、10月1日)



モデルロケット大会の会場から野口宇宙飛行士にエールを送り、この様子は全国に生中継されました(筑波宇宙センター、10月1日)



オープンカー3台に分乗し、沿道を埋め尽くす観衆の中を進むSTS-114クルー(茅ヶ崎市、10月2日)

☆筑波宇宙センター特別公開

10月23日(日)に筑波宇宙センター特別公開を行います。様々なイベントを企画しますので、お楽しみに。

筑波宇宙センターまでの道のりはこちらをご覧ください。<http://www.jaxa.jp/about/centers/tksc/traffic.j.html>

問い合わせ先: 宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター

ホームページ <http://iss.sfo.jaxa.jp/>

Eメール kibo-pao@jaxa.jp

ウィークリーニュースメーリングサービス登録 <http://iss.sfo.jaxa.jp/weekly/index.html>

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。